

年間第16主日円山カトリック教会 集会祭儀

さて、使徒たちはイエスのところに集まって来て、自分たちが行ったことや教えたことを残らず報告した。イエスは、「さあ、あなたがただけで人里離れた所へ行っ、しばらく休むがよい」と言われた。出入りする人が多くて、食事をする暇もなかったからである。そこで、一同は舟に乗って、自分たちだけで人里離れた所へ行っ。ところが、多くの人々は彼らが出かけて行くのを見て、それと気づき、すべての町からそこへ一斉に駆けつけ、彼らより先に着いた。イエスは舟から上がり、大勢の群衆を見て、飼い主のいない羊のような有様を深く憐れみ、いろいろと教え始められた。(マルコによる福音書6章30-34節)

おはようございます。3分間の分かち合いの奉仕をさせて頂く札幌聖心のチャプレン、聖心会の田口でございます。

昨夜は美しい満月でしたね。日ごろ、地上の出来事に一喜一憂し、「あれも、これもしなければ」とあくせくする身ですが、眺めていると、その神秘的な美しさに、心はるかかなたの世界に誘われる思いで、疲れが癒されました。そして、月の姿は変わらないのに、地上の私たちの目には、三日月、上弦、下弦、そしてまったく見えない新月へと変わっていくことに改めて気づきました。

今日の福音の箇所では、イエスと弟子たちが、休息と静けさを求めて湖に漕ぎ出して人里離れた所に行こうとする様子が描かれています。一説によるとこの場所は特定されていて、舟に乗って湖を渡ると約6.5キロ、湖を回って歩いて行くと16キロだったと言われています。強風が吹いたのか、舟がこぎ悩んだのか、一行の後を徒歩で向かった人々の方が先についたというのですから、その熱気は大変なものだったと思います。

同じ6章の最初で、故郷ナザレの人々が、イエスを知っていると思い込み、固定概念にとらわれて受け入れなかったために、イエスは奇跡をおこなうことがお出来にならなかったとありますが、それとは、全く反対の熱気です。だからこそ、この後すぐ、この5000人以上の人々全てが、食べて満ち足りるように、パンの奇跡が起きたのでしょうか。イエスご自身は全く変わらないのに、私たちに信じる心があるのとなないのでは起こる出来事が変わってしまうことを教えられます。

それは人も同じです。相手を知っているつもりで、固定概念で決めつけてしまうと、信じる心も生まれず、奇跡も起きません。信じる時、奇跡が起きます。勉強が苦手と言っていた人が、大学の教員になり、著書を贈ってくれたり「血を見るのが苦手」と言っていた人が医学の道に進んだり、数えればきりがありません。

また、イエスは、「飼い主のいない羊のような」人々を深く憐れみ、教えられたとあります。「羊という動物は野生では生きられず、世話をする飼い主がいなければ、出産すらできず、生きていくことはできない」と教えられました。「飼い主」つまり、人々の幸せに責任を持つ政治的指導者の一人ヘロデは、この箇所の直前で語られるように、不道德な生活

の果てに、洗者ヨハネを殺すこととなります。宗教的な指導者たちも、固定概念にとらわれて、羊を心にかけていない有様です。色々な意味で飢えを体験し、居場所を求める人々は、自分を心にかけて、そのために様々な飢えを満たして養い、命を捨てるイエスに出逢って、熱狂しないでいられましょうか。

多くの失望を味わった末に、やっと巡り合うことができたイエスは、この自分たちを心にかけて、その飢えと渴きを癒し、豊かに養ってくださる方だった。イエスと出逢った人々の喜びと熱気に思いを馳せる時、失望や心の飢えがあつてこそ、イエスがどんな方かを知ることが出来るのだと気づきます。

私たちも満月に照らされるように、この自分を心にかけて、ご自分のいのちで満たして下さい。イエスに気づくことが出来ますように祈り合いましょう。ありがとうございます。

Chớ gì chúng ta nhận ra hình ảnh của Chúa Giêsu, Đấng chăm sóc chúng ta và lấp đầy chúng ta bằng sự sống của Ngài Cảm ơn bạn